

平成 26 年度

事 業 報 告

社会福祉法人 名東福社会

目 次

名東福祉会のミッション	2
事業機構	4
利用者の状況	6
デイケア事業	11
メイトウ・ワークス	
天白ワークス	
はまなす	
レジデンス日進	
ナイトケア事業	22
相談支援事業	26
サービス品質の向上を目指した取り組み	34
安全委員会・安心委員会・接遇委員会・給食委員会	
新規職員研修・マネージャー研修	
機関誌「WORKS」編集部	
施設・事業所一覧	

名東福祉会のミッション

● 名東福祉会のミッション（使命）

名東福祉会の使命は、東部名古屋地域の障害者ケアと、障害者ケアに関するあらゆるサービスを提供することを目的とする。

名東福祉会は障害者のクオリティオブライフを高めるため、名古屋市東部地域において、障害者のための継続的ケアを提供し、利用者の自由と自立の実現をめざす。

● 福祉サービスの基本的考え方

（1）健康

- ・利用者のクオリティオブライフを最優先した福祉サービスを提供する。
- ・利用者が可能な限り健康を維持・増進することができるように支援する。
- ・提供サービスの質を向上させるためにリスクマネジメントを行う。

（2）自己決定の支援

- ・地域に福祉団体と人の支援ネットワークを形成し、多様なプログラムによって利用者の生活を支える。
- ・生活スタイルを自ら選択することができるように支援する。
- ・利用者とその家族が設定した目標の実現に向けて多角的な支援を行う。
- ・利用者のニーズにあったプログラムの選択が可能なように柔軟な対応を実現する。

（3）個別支援計画にもとづいた処遇

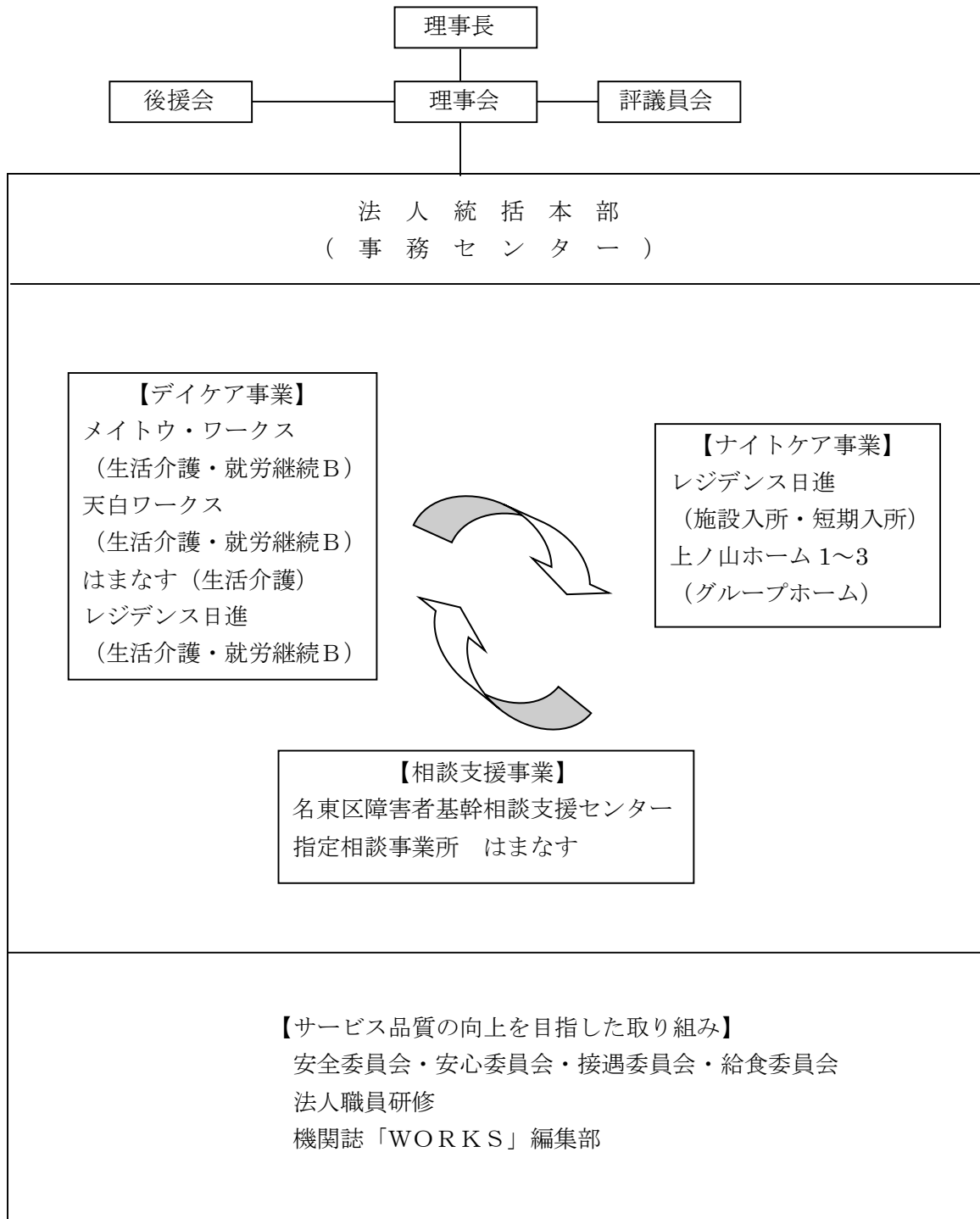
- ・施設の運営方針と利用者のニーズに基づき、ニーズを満たすために必要な個別支援計画を立案する。
- ・個別支援計画の立案にあたっては、できる限り利用者本人・利用者の家族または親権者・障害者福祉に関わる専門家とともにこれを作成し、提供されるべき個別支援計画決定し、利用者、家族、職員、地域社会相互の満足を実現する。
- ・個別支援計画によって設定された目標の達成度を常にチェックする。
- ・関係機関が利用者のニーズと支援技法に関する情報を共有し、支援内容を継続的に改善する。

（4）提供サービスの妥当性の確保

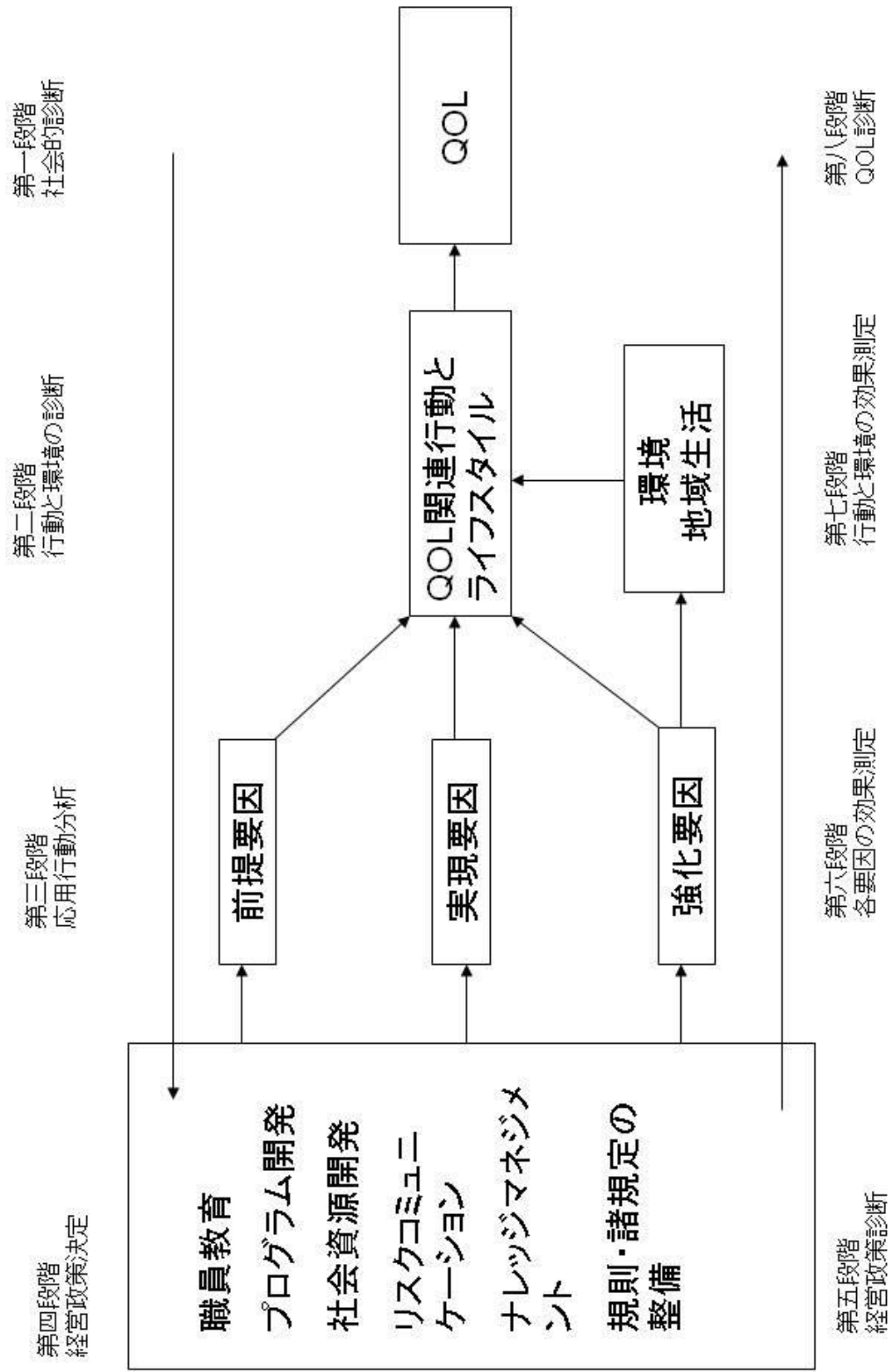
- ・利用者の権利を護るため自己チェック体制を整える。
- ・利用者とその家族がいつでも正当な権利を行使することができるようにサービスのあり方を常に見直す。
- ・情報公開に努める。

事業機構

1. 機構図



利用者のクオリティ・オブ・ライフの改善モデル



2. 職員構成（平成27年4月1日現在・計85名）

	理事長	本部長	事務員	所長	支援員 相談員		看護師	栄養士	医師
					男	女			
法人全体	1	1	3	5	31	40	2	1	1
メイトウ・ワークス				1	3	5	(1)		(1)
天白ワークス				1	4	5	(1)		(1)
はまなす				1	3	4	(1)		(1)
レジデンス日進				1	20	22	1	1	(1)
上ノ山ホーム				(1)					
名東区基幹C				1	1	2			
指定相談はまなす				(1)		2			

* レジデンス日進の支援員および栄養士、また看護師は、常勤換算前の実人数

* () は兼務

利用者の状況

(平成 27 年 4 月 1 日 現在)

名東福祉会は現在、232 名の方々から利用契約をいただき、名古屋東部地域を中心に、障害福祉サービスの提供を行っています。継続的に、デイケアおよびナイトケア事業を利用されている方が 165 名（うち 24 名が両事業を重複利用）、短期入所や日中一時支援事業の契約者が 23 名、相談支援事業の契約者が 68 名となります。

障害をもった方々の生活をトータルに支援できるよう、事業所間の連携を強化して利用者のニーズに応えていきたいと考えています。

1. 年齢分布

	～19歳		20歳～		25歳～		30歳～		40歳～		50歳～		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
メイトウ・ワークス		1		3	3	4	3	5	11	8	2	1	41
天白ワークス			4	2	5	2	4	2	6	5	3	2	35
はまなす	1				5	1	9	3	1	1	2		23
レジデンス日進					2	2	6	4	11	8	1	5	39
上ノ山ホーム					1	1	4	1	7	3	6	4	27
法人全体	1	1	4	5	16	10	26	15	36	25	14	12	165
	2		9		26		41		61		26		

2. 居住（出身）地分布

(1) 名古屋市内分

	名古屋市												
	名東	天白	緑	千種	昭和	守山	瑞穂	中村	中川	南	港	中	東
メイトウ・ワークス	28			1	1	3			1				1
天白ワークス	2	15	4		4				1	2			
はまなす	15	3		1	2	1	1						
レジデンス日進	6	7	5	1	1	2	1	1	1	1	1		
上ノ山ホーム	4	7		1	4	1	1	1		2			
法人全体	55	32	9	4	12	7	3	2	3	5	1	1	1

(2) 名古屋市外分

	名古屋市外							小計	市内小計	合計
	日進	春日井	尾張旭	瀬戸	江南	他県内				
メイトウ・ワークス	4					2	6	35	41	
天白ワークス	7						7	28	35	
はまなす							0	23	23	
レジデンス日進	6		1	1	2	1	11	28	39	
上ノ山ホーム	1	1	1	1		2	6	21	27	
法人全体	18	1	2	2	2	5	30	135	165	

3. 障害の程度：障害支援区分認定結果

	1		2		3		4		5		6		計 (平均)
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
メイトウ・ワークス	1	1	1	2	5	6	5	7	4	1	3	5	41(4.0)
天白ワークス			2		5	2	9	6	4	4	2	1	35(4.0)
はまなす					2		3		8	3	5	2	23(5.0)
レジデンス日進					1		4	3	7	7	8	9	39(5.2)
上ノ山ホーム			3		5	2	6	4	4	2		1	27(3.8)
法人全体	1	1	6	2	18	10	27	20	27	17	18	18	165
	2		8		28		47		44		36		

4. 障害の種別

(1) 主たる障害

	広汎性発達障害		ダウン症		知的障害		重症心身		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
メイトウ・ワークス	8	8	2	6	7	7	2	1	41
天白ワークス	12	4	5	1	5	8			35
はまなす	12	1	4	1	2	2		1	23
レジデンス日進	12	7	1	1	6	9	1	2	39
上ノ山ホーム	10	5	1		7	4			27
法人全体	54	25	13	9	27	30	3	4	165
	79		22		57		7		

(2) 重複障害

	肢体		視覚		聴覚		内部		精神		延計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
メイトウ・ワークス	2	2					1	3	1	1	7
天白ワークス	1	2			1		1				5
はまなす		2		1							3
レジデンス日進	3	2				1					6
上ノ山ホーム			1		1	1			3		3
法人全体	6	8	1	1	2	2	2	3	4	1	30
	14		2		4		5		5		

5. 利用期間

	～1年		1年～		3年～		5年～		10年～		15年～		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
メイトウ・ワークス		2	2			1	1	7	6	5	10	7	41
天白ワークス			1	1	4	4	10	2	2	4	5	2	35
はまなす			1		1		3	1	2	3	11	1	23
レジデンス日進		1	4	7			3		13	11			39
上ノ山ホーム			9	9			9						27
法人全体		3	17	17	5	5	26	10	23	23	26	10	
		3	34		10		36		46		36		

6. 月別平均利用者数

	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月
メイトウ・ワークス	37	33.0	32.8	33.1	34.0	33.4	34.3
天白ワークス	35	30.3	31.0	30.9	29.4	30.3	31.5
はまなす	30	22.3	22.2	22.2	22.8	22.4	22.7
レジデンス日進	40	38.1	37.1	38	38.2	36.7	39
上ノ山ホーム	27	25.7	25.8	26.2	26.1	24.6	26.3

10月	11月	12月	1月	2月	3月	今年度平均	前年度平均	
32.0	33.9	32.5	32.9	31.7	32.0	33.0	33.3	メイトウ
30.2	31.5	30.5	30.3	29.2	30.5	30.5	32.6	天白W
22.0	22.4	21.6	22.4	20.6	22.0	22.1	22.8	はまなす
38.4	38.4	38.2	39.1	38.1	38.1	38.1	38.3	レジデンス
26.2	25.8	25.6	24.3	25.9	26.1	25.7	25.7	上ノ山H

* はまなすは、地域との話し合いで、25名程度の利用を目安としている

7. 短期入所事業利用者数：レジデンス日進・定員7名

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
137	138	127	167	124	135	126	126	129	131	102	127	1568

8. 日中一時支援事業利用者数：レジデンス日進・定員7名

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
6	7	9	3	5	5	5	3	4	3	2	4	56

* 日中一時契約市町村：名古屋市・日進市・長久手町・尾張旭市

9. 通所施設時間延長サービス利用者数（16：00～17：00）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
メイトウ・ワークス						
天白ワークス		1			2	
はまなす	4	6	8	14	9	7
法人全体	4	7	8	14	11	7

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
				1		1	メイトウ・ワークス
1				1	1	6	天白ワークス
10	6	7	22	10	10	113	はまなす
11	6	7	22	12	11	120	法人全体

デイケア事業

名東福祉会は、昭和 57 年にメイトウ・ワークスを開所して以来、質の高い日中プログラムの提供を目指してきました。

人の暮らしの質を考える場合、やはり日中の過ごし方の重要性は第一と言えます。施策や制度の動向を踏まえながら、利用者のニーズに基くサービス提供の姿勢を保ち、多様な選択肢をご提案していきたいと考えています。

メイトウ・ワークス

24年度に事業移行してから、生活介護・就労継続支援B型ともに作業を中心とした活動を続けてきた。結果、各事業全体的に落ち着いた日中生活をおくることが出来るようになった。一方、あまり変化のない日中活動でモチベーションを保つ事が難しく感じるようになってきた。

そこで、就労継続支援B型には外部での研修企画を行った。単なるお出かけとしてだけでなく、普段の下請作業と結び付けて考えることが出来た利用者もいた。生活介護では、普段行っているリラクゼーションプログラムを森林浴プログラムとして行った。散歩とは違った目的をもって楽しむことができた。また、就労継続支援B型の工賃は時給支払しているが、単発でお受けする作業についてはその月の工賃に加算を行った。隔週で行うスケジュール発表で報告すると利用者から喜びの声が上がるようになった。

ここ数年、自主製品の売上が下降気味になっている。販路の拡大と新製品の開発が課題となっている。注文を待つだけでなく、積極的には販売を行っていきたい。

1. 各事業共通

(1) 作業種目と年間売上状況 (単位：円)

	陶芸	縫製	下請他	計
平成26年度	360,510	1,829,392	350,916	2,540,818
平成25年度	287,626	1,960,396	365,614	2,613,636

(2) 作業内容

● 縫製作業

変身ぬいぐるみの製作。全国の保育所や子育てサークルから注文を受ける。作業工程が多く、能力に合わせた作業があり、多数の利用者が参加する。

● 陶芸作業

動物はし置き、季節の人形、お皿などの小物陶器を製作。土に触れる、型抜き、成形、素焼きの絵付け、焼成後の仕上げなど多くの作業がある。

● 下請け作業

自動車部品の組み立て、部品の袋詰めなど、作業内容が明確で利用者に分かりやすいプログラム。

(3) 利用者給与支給状況

- ・就労継続支援B型 時給 70円 (最も多い方で 6,930円/月)
夏冬賞与 (最も多い方で 13,655円) あり。工賃総額 870,505円
- ・生活介護 日給 100円 夏冬賞与あり。工賃総額 707,000円

(4) レクリエーションプログラム・イベント

レクリエーションプログラムは生活介護を中心に行っているが、交流行事は全体で取り組んだ。

○季節行事

七夕会・クリスマス会（ポケットの会）・バレンタイン（めいとう朗読会）

○リラクゼーションプログラム

○音楽療法

○全体行事

- ・春まつり（厚生院の招待）
- ・家族会ボランティア交流会
- ・あそび広場（高針北保育園交流）
- ・書初め発表会

(5) 地域交流

年間延べ 430 名のボランティアに来所いただいた。作業やイベントに参加いただき、利用者との関わりを深めた。

厚生院「春まつり」・高針北保育園「あそびひろば」に招待参加。名東の日（区民まつり）平和の丘春まつり、めいとう福祉まつり、エコフェスタなど地域で行われるイベントバザーに参加して交流を行った。

(6) 地域貢献

地域の町内会や子供会などに休業日や夕方、施設の空き部屋を解放、年間延べ30団体が利用した。また、施設の駐車場を南自動車図書館の巡回ポイントとして利用いただいた。

地域の中学校から福祉体験や職場体験、大学生の介護体験や名古屋市職員の新人研修、福祉専門学校の実習など随時受け入れた。

2. 就労継続支援B型事業

通所による就労や生産活動の機会を提供するとともに、一般就労に必要な知識、能力を身に付けられるよう支援した。作業の準備から納品まで自主的に行動できるよう支援した。隔週で利用者会議を行い、作業やスケジュールなど利用者同士で確認した。

3. 生活介護事業

作業を中心とした活動を行うことで、社会参加と日中生活が安定するよう支援した。余暇支援として、季節行事、ウォーキングプログラム、リラクゼーションプログラムとして足湯やアロマセラピー、音楽活動など行った。

天白ワークス

26年度は事業計画において、生活介護事業では「陶芸を生産活動、余暇活動として事業ブランドとしていく」ことを基本方針とし、また、就労継続支援B型事業では「陶芸作業で高品質の製品を制作していく」ことを基本方針として事業活動を行った。この活動の中で、天白ワークスでは陶芸作業ができること、また、創作活動として楽しむだけでなく、個性的で魅力的な製品を製造していることを伝えていくことを目指した。

活動内容としては、瀬戸市のギャラリーらくちんにて展覧会を開催したり、アートセットスタジオにて企画展を行った。また、名古屋市市政資料館においても展示会を行い、天白ワークスの陶器や創作活動の紹介を行った。

また、本州建設様の支援を受け、近隣の障害福祉事業所が販売移動車で販売を行うてんぱくたまり場プロジェクトに参加し、近隣の方々に天白ワークスの陶器の販売、紹介をおこなった。

しかし、天白ワークスの陶器の紹介を進めてはいるものの、現状では陶器製品の売り上げが例年と変わらない状況のため、今後は作業プログラムとしての魅力を紹介し、利用者にとって魅力的な作業としていくとともに、商品として購入して頂けるものを製造していくことにより、仕事としてもやりがいのあるものとしていくことを目指していく。

1. 各事業共通

(1) 作業種目と年間売上状況（単位：円）

	陶 芸	焼き菓子	精 米	下請け他	計
平成 26 年度	3,070,058	1,971,924	308,980	825,359	6,176,321
平成 25 年度	1,156,037	2,186,101	349,480	904,749	4,596,367

(2) 作業内容

- 陶芸
食器(コップ・皿)、置物、マグネット等を製作。形成、水拭き、絵付け・釉掛け、仕上げを行う。
- 焼き菓子
店舗兼製造場の「焼き菓子の店ロト」でクッキー・パウンドケーキ等の焼き菓子を手作りして製造し販売している。材料の準備、計量、生地づくり、成形、袋詰め、包装の工程を、利用者が役割分担している。
- 精米
市内の米問屋から仕入れた近隣の地区で収穫された玄米から、虫食いの米・草の実を選別後、計量・袋詰めして販売している。注文を頂いてから白米にしている。
- 下請け
部品の組み立て、製品の袋詰め等、工程がわかりやすく、納期に余裕がある作業を導入している。作業工程を細分化・構造化することで、多くの利用者が参加している。

(3) 利用者給与支給状況

生活介護 100 円／日 平均工賃額 3,962 円
就労継続支援 基本給・評価給 平均工賃額 10,583 円
夏・冬賞与あり
工賃総額 2,458,800 円

(4) レクリエーションプログラム・イベント

生活介護を中心に行っているが、グループハイク・交流会・クリスマス会は、就労継続 B 型の利用者も会議による話し合いによって参加を決めている。

- グループハイク
グループ別に場所や内容を選んで参加
- バスハイク
バスを利用して行楽地へ外出
- 音楽療法
月 2 回 講師によるミュージックケア 2 グループに分けて利用
- 家族交流会
利用者・家族・ボランティア・職員の交流を目的に実施。今年度は近隣のレストランでビュッフェを楽しんだ。
- クリスマス会
ゴスペルグループによるクリスマスコンサート
- スポーツ大会
ソフトボール大会、フットベースボール大会に参加

(5) 地域交流

天白区区民まつり。
あけぼの学園の祭り
御前場秋祭り
近隣にお住いのボランティアさんが活動の可能な日・時間で参加いただいている。

(6) 地域貢献

中学生の 1 日体験学習(日中活動と一緒にこなう・事前訪問での事業所の紹介・説明)
教職課程履修の大学生の介護体験実習
福祉専門学校生の実習受入れ

2. 就労継続支援 B 型事業

作業をし、給与をもらい、余暇活動を楽しむことを流れとして理解して頂けるように支援を行った。

工賃に評価給を導入し、正確に継続的に作業することの意味や大切さを意識していただけるよう支援した。

また、工賃支給日は外食日とし、働いた成果を実感して頂けるようにした。

月 1 回の会議で仕事、対人関係や余暇活動等の日程や参加を話し合いで決めた。
(利用者が司会・記録を務めている)。

3. 生活介護事業

利用者の個々の特徴(コミュニケーションスキル、介護度、活動)に合わせたグループ別に、作業を提供した。

作業を通じて社会とつながり、貢献していくことを目指した。

健康支援としてウォーキング、リフレッシュプログラムとして散歩をおこなった。

はまなす

作業プログラム（下請作業等）については、作業室内を分割して、利用者が落ち着いて作業ができる環境を整備した。これによって、今まで作業に関わることができなかった利用者に、作業が提供できるようになった。利用者が何らかの形で作業に携わることができるようになり、毎日の日中活動が安定してきている。今後は、現状の作業量の確保と、これまでとは違う新しい作業を増やしていくことができればと考える。

レクリエーションプログラムについては、月間予定表の作成に加え、曜日ごとに種目を固定化して、利用者にとってより分かりやすくなるようにした。これによって、毎日午後から散歩に出かけていた利用者も、週2～3日はレクリエーションに参加できるようになった。今後は、内容の充実をはかるとともに、マンネリ化を防ぐための工夫が必要かと思われる。

生活介護事業

(1) 作業種目と年間売上状況（単位：円）

	下 請
平成 26 年度	123,625
平成 25 年度	118,830

(2) 作業内容

ポケットティッシュの包装、ナット・ワッシャーの袋詰め、ボルトのナット止め

(3) 利用者給与支給状況

500 円／月 工賃総額：136,000 円

(4) レクリエーションプログラム・イベント

● 散歩

公用車を使用して近隣の公園や公共施設まで出かけ、散歩、散策を行った。気分転換、健康増進、一般の方々との交流などを目的に、午前、午後とメンバーを替え実施した。

● 通常のレクリエーション

毎日午後の時間帯にカラオケ、リラクゼーション、スポーツ、音楽、お菓子作り、創作活動、身体活動等のレクリエーションを行った。レクリエーションの内容を曜日ごとに固定し、利用者により分かり易いようにする等、プログラムの質の向上を目指した。

● ソフトボール大会への参加

5月及び10月に小幡緑地西園球技場において、天白ワークス、レジデンス日進利用者と合同で大会に参加した。また、10月の大会では優勝することができた。

● スポーツ大会（小運動会）

6月19日午後より名古屋市障害者スポーツセンター体育館において、家族会と合同で小運動会を行い、家族会やボランティアとの交流を深めた。

● プール活動

7月から8月にかけて小グループにて、名古屋市障害者スポーツセンター室内プールを利用した。

● 夏まつり

夏期休暇前日に、午後からゲームや軽食などで楽しんだ。

● グループハイク

9月に小グループによる日帰り旅行を実施した。伊吹山、しあわせ村、映画館、ボーリング、浜名湖遊覧船、関ヶ原ウォーランドへ各グループで出かけた。

● 家族交流会

11月14日に利用者、家族会、ボランティア、職員間の親睦交流を目的として、日帰り旅行を実施した。名古屋市身障者福祉連合会福祉バスを利用し、木曾三川公園を散策した後、名古屋市休養温泉ホーム松ヶ島へ場所を移し、会食をしながら、はまなす開所20周年にちなんだ内容のイベントを行った。

● フットベースボール大会への参加

11月5日に鶴舞公園陸上競技場において、天白ワークス、メイトウ・ワークスとの合同チームで大会に参加した。

● 年末パーティー

12月24日午後から、音楽活動などで楽しんだ。

(5) 地域貢献

5/25 高針台一丁目町内会一斉清掃

8月 極楽学区盆踊り大会協賛金協力

10月 秋の祭礼「たかほくまつり」へバザー品を提供協力

11/30 高針台一丁目町内会一斉清掃

また、区内中学生の福祉体験、職場体験等の受け入れや、名古屋市新規採用職員研修、ホームヘルパー実習及び大学・専門学校からの学生実習も随時受け入れた。

レジデンス日進

毎日決まった作業プログラムや健康維持やリフレッシュの為のウォーキング・散歩・レクリエーションが安定して提供できるようにした。

生活介護では季節に合わせた行事、講師による和太鼓、音楽療法やボランティアさんの来所により外部との交流が持たれた。作業プログラムの材料を B 型から提供してもらい作業収入にもなっている。就労継続支援 B 型は近隣企業から仕事を受注し、利用者個々の状況に合わせて仕事を分担し、工賃として支給した。月 1 回の工賃支給日の外食は継続して行っている。

今後もプログラムを継続的に提供する事と内容の工夫をしていく。

1. 各事業共通

(1) 作業種目と年間売上状況 (単位: 円)

	下請他
平成 26 年度	987,064
平成 25 年度	846,077

(2) 作業内容

施設近隣の会社からの下請け作業 (自動車部品の組立て、ガス器具の部品組立、水洗トイレの部品組立など) を主な作業 (生産活動) として提供している。

(3) 利用者給与支給状況

年間総計で 929,810 円を利用者に還元している。内訳としては、生活介護事業対象者に夏期及び冬期の賞与一時金として 135,000 円、就労継続支援 B 型事業対象者は 794,810 円を支給している。

(4) レクリエーションプログラム・イベント

レクリエーションプログラムは生活介護を中心に行っている。イベントプログラムでは、季節ごとの企画として、お花見とイチゴ狩り 4/8、流しそうめん 7/7、西学童保育所の学童の方を招いてゲーム大会 8/1、クリスマス会 12/22、初詣 1/5、節分豆まき 2/3、等を実施。

ゴルフ大会招待観戦 (中京テレビ・ブリヂストンレディースオープン) (5/23) に参加。

日帰り旅行として 10/8 に「駒ヶ根家族旅行村アルプスの丘」へ就労継続支援 B 型利用の方が 10/21 に「あきんどの里と琵琶湖博物館」に生活介護利用の方が出かけた。

毎月、第 2 金曜日に和太鼓、第 4 金曜日に音楽療法をそれぞれ専門講師に来て頂いて実施している。

年に 2 回 (5 月・10 月) に法人合同チーム (天白ワークス・はまなす) でソフトボール大会に参加している

27 年 1 月より、第 2、4 火曜日に訓練を受けたセラピー犬が数頭来所して交流している。

(5) 地域交流

「レジデンスまつり（秋まつり）11/22」においては、地域との交流を目的として、近隣地区の方をお招きして模擬店やゲーム等の催し物に参加していただいている。

日進市の障害者団体連絡会主催のクリスマス会(法人嘱託医中心のドクターズバンドのコンサート)に参加。12/7

又、個人のボランティアとして、日進市民生委員活動から継続して参加して頂いている。

(毎月第2木曜日、第4火曜日)

あじさいコンサート(日進市内の他事業所主催に協賛) 日進市民まつりに参加

日進市チャレンジド夏祭りに出店

(6) 地域貢献

大学・専門学校からの保育士実習を受入れている。隣接した日進西学童保育所、動作法グループ(つばさの会)、子育て支援グループ、地域の市民グループに「デイサービス2階」及び「地域交流スペース」の貸出しを実施している。

2. 就労継続支援B型事業

就労継続支援B型事業(定員10名)を日進市上ノ山の作業棟で生産活動(下請け作業が中心)を提供している。働くことの意味・工賃を意識していただけるよう支援した。また、毎月の工賃日には、近隣の中華料理店に昼食を食べに出かけている。中華店の皆さんとも顔なじみとなり、活動のメリハリや働く力、励みとなっている。

3. 生活介護事業

生活介護事業(定員30名)をデイサービス1階・2階で行っている(利用者の個々の状況でグループ分けしている) 生産活動とレクリエーションプログラムと組み合わせて日中活動を展開している。健康促進の為、デイサービス1階は隣接している「三ッ池公園」を散歩、デイサービス2階は室内を30分間ウォーキングしている。また、デイサービス敷地の中庭で畑作業を不定期でおこなった(春にさつまいもを植え収穫、秋まつりの体験コーナーで使用した。秋にえんどう豆・イチゴを植えた。雑草抜きもおこなっている)

* 参 考

	メイトウ・ワークス	天 白 ワークス	はまなす	レジデンス 日 進	法人全体
陶 芸	360,510	3,070,058			3,430,568
縫 製	1,829,392				1,829,392
焼き菓子		1,971,924			1,971,924
精 米		308,980			308,980
下請け他	350,916	825,359	123,625	987,064	2,286,964
計	2,540,818	6,176,321	123,625	987,064	9,827,828

H25 年度	2,613,636	4,596,367	118,830	846,077	8,174,910
H24 年度	2,883,730	4,997,486	140,265	537,219	8,558,700
H23 年度	3,836,240	5,153,928	133,845	138,600	9,262,613

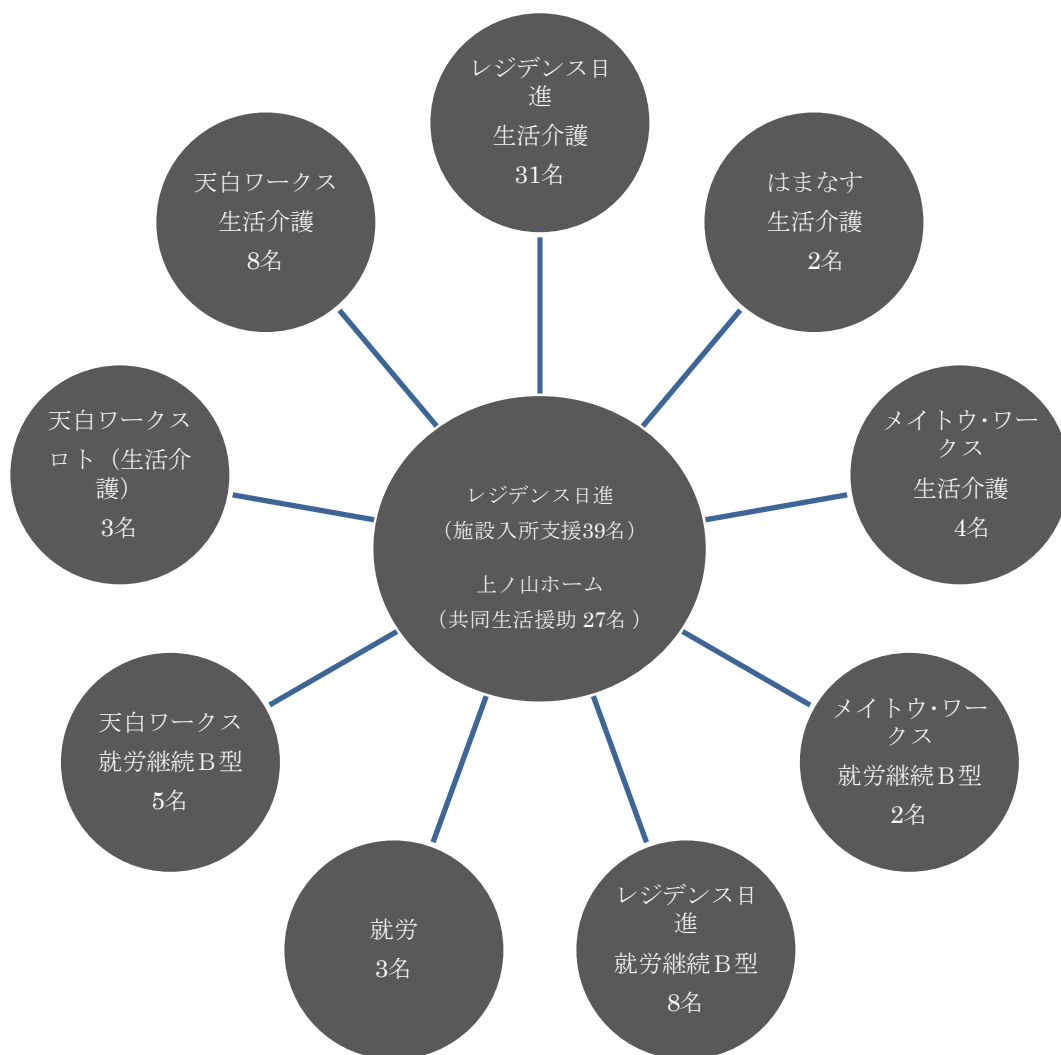
ナイトケア事業

名東福社会では、レジデンス日進を生活支援の拠点としてグループホームを展開しています。レジデンス日進の4つのユニットに加えて、上ノ山ホームもユニットと考え、ナイトケアのノウハウを生かすことで、安定したサービス提供を図ります。

今後、ナイトケア事業への期待は高まるばかりですので、健康で快適な生活の場を提供できる支援体制を創造していきます。

1. 生活の場と日中活動の場の連携

日中の活動場所が多岐に分かれる為、レジデンス日進及び上ノ山ホームと日中活動事業所との連携は不可欠になる。事業所の支援員間で利用者個々の様子・健康面等での伝達事項を積極的に共有するようにしている。



2. ナイトケア事業間の連携

施設入所支援及び、共同生活介護における職員配置は、レジデンス日進の職員を軸にシフト配置されている。また、法人の通所事業所の職員による夕方からの、生活支援（夕食・入浴など）を中心にバックアップの体制を継続している。

上ノ山ホームは、平成24年6月より増設（18名 2住居）合計定員を27名（3住居）になり、その為、より一層の連携が必要になっている。利用者の病時における通院支援は、看護師を中心にレジデンス日進職員及び必要に応じて、法人内職員でバックアップ体制をとり、緊急時に対応している。

3. ユニット単位の支援

レジデンス日進（施設入所支援）は1ユニット10名程度のユニット単位、同様に、上ノ山ホームでも1住居（ユニット）9名での生活支援を基盤にして個別対応を中心としたニーズの充足に留意している。特に、入浴は、各ユニット（住居）に浴槽2個を設置しており、毎日、個別に入浴している。また、共有スペースには、テレビ、テーブル、椅子等を配置して、朝、夕の食事はもとより、利用者がくつろげる空間としている。

4. 健康管理

レジデンス日進及び上ノ山ホームのナイトケア事業所における健康管理の重要性を踏まえ、看護師が中心となり、現場支援員との連携を図りながら取り組んでいる。

年2回（6/11、12/3）の定期健康診断を実施。個々の状態により毎日・毎週の体重・血圧測定を実施。又、訪問歯科検診（7/31）、インフルエンザ予防接種（11/10）を実施した。

生活習慣病予防対策として、対象利用者は毎朝（休日は除く）及び午後からの時間を利用して30分間のウォーキングを実施している。また、感染症対策（発症時の対応マニュアル整備）、通院支援として体調不良の利用者に対しての早めの医療機関への受診、精神科、歯科、眼科、皮膚科への継続受診も支援している。往診（月2回）を含め嘱託医を中心とした地域医療機関との連携に留意している。

利用者個別の「体調シート」を作成し、利用者の毎日の体調および傷や怪我の位置（入浴時にチェック）、状況を記入し、状態の把握・共有を図り適切な支援・介護に努めている。

また、緊急対応マニュアル（てんかん発作時の個別対応シート含む）は、各ユニットに設置している。夜間帯にも6名の職員が勤務しており、緊急時にも連携をとり、より早く対応できるよう努めている。（AED（自動対外式除細動器）を設置している。）

5. 防災対策

災害時用の備蓄（7日分）、緊急マニュアルの整備、避難誘導訓練をおこなっている

6. 金銭等の管理

レジデンス日進及びホーム利用者の財産管理について、「施設利用者の年金等取扱要領」に従い、適正・確実を旨としておこなっている。年金及び現金管理をしている利用者には行政等の手続きの代行もしている。年金管理を家族、後見人等に任せている利用者には現金のみ事業所が預かり、管理している。

7. 季節行事

なつまつりとして8/1 夕食後にかき氷・花火をレジデンス日進・上ノ山ホーム合同で実施した。12月は、家族会からクリスマスの飾りつけ、クリスマス会12/22にはサンタクロースに扮してプレゼントを届けて頂いており、利用者を楽しませている。1/17お餅つき（利用者の還暦お祝いもおこなう1名）ご家族に協力していただく行事として、「はるまつり（たけのこまつり）4/26」「あきまつり（レジデンスまつり）11/22」を企画・実施している。

給食では年末・年始、節分・ひなまつり・端午の節句など時季に合わせた献立を考慮している。

今年度は、個々の利用者様の意向、趣向、障害の特性を知り、理解して支援をしていく為に、複数の職員が関わりアセスメント・個別支援計画・モニタリングを行い日々の支援に生かそうと努力した。全体の会議は月 1 回の為、ユニット担当者が元となる計画を作り複数の職員で確認した。内容は生活に密着している為、「できること」と「できないこと」に捉われがちになるが、個々の利用者様の変化の事象をなぜなのか、どうしてそうしたいのかをアンケートをとり会議で話し合い支援方法を考えた。今後も生活全般について、多くの目で様子を捉え利用者様を知り、理解していきたい。

上ノ山ホームの利用者様の休日の余暇支援をサービス等利用計画の計画にもりこむことで、ヘルパーさんを利用して安定して支援を受けることができるようになった。

地域交流を上ノ山ホームにいる時間帯におこなう事を考えた為、畑を一部借りて作物を作るだけになった。今後は上ノ山ホームが立地している場所にこだわらず、日中活動の内容で地域交流をすることを考えたい。

相談支援事業

名東福祉会は発足当初から、地域にお住まいの障害をもった方々の支援を積極的に行ってきました。当事者の意向に沿った地域生活支援の重要性は増すばかりですし、そのためのネットワークの構築は必須です。

そんな中、名東区障害者基幹相談支援センターは、総合相談や地域づくりといった地域生活支援の拠点機能を担っていきます。

また、はまなすには指定特定相談支援事業所を併設し、計画相談の提供を行っています。

名東区障害者基幹相談支援センターきふね

1. 相談業務

(1) 新規相談の状況

平成 26 年度の新規相談者実数、内訳等は以下の通り。相談受付作成分のみをカウントしている。計画相談の利用が進み、基幹センターはむしろ、サービスありきでない基本相談の充実を目指した。また、障害児相談も本格化し、特に就学前児童の相談が直接入ることはほとんどなくなった一方、多課題ケースについて児童相談所と連携することが多くなった。

成人ケースも含め、受付数としては前年度より減少しているが、訪問・外来件数は増えており、家族も含めた多課題ケースに丁寧に対応してきた結果と考えている。

【居 所】

	名東区	計
相談者数	40	40

【年齢—性別】

	児童（～17歳）	成人（18歳～）	計
男	4	15	19
女	1	18	19
不明	1	1	2
計	6	34	40

【障害種別（複数カウント）】

種 別	身体	重症心身	知的	精神	発達障害	高次脳機能	不明・無手帳
相談者数	15	1	7	11	7	0	1

【相談内容（複数カウント）】

	サービス利用	障害・症状の理解	健康・医療	不安解消・情緒安定	保育・教育	家族関係・人間関係
相談件数	35	13	13	14	6	18

家計・経済	生活技術	就労	社会参加・余暇活動	権利擁護	その他
9	10	8	3	1	16

(2) 相談受付の状況（新規相談を含む）

平成 26 年度に関わった相談者数、内訳等は以下の通り。相談受付の作成までには至らなかったケースも含まれており、1 年間の相談支援実績そのものと言える。

新規相談同様、多課題ケースへの対応が主となり、サービス調整のみの相談はほとんど聞かれない。また、親の高齢化に伴い、新たな生活の場を求めるケース（50 代）や本人が介護保険に移行するケースが年々目立ってきている。

【居 所】

	市内			市外	計
	名東	千種	天白	日進市	
人	153	1	1	2	157

【年齢・性別】

	児童（～17 歳）	成人（18 歳～）	計
男	12	62	74
女	4	56	60
性別不詳	3	20	23
小計	19	138	157

【障害別（複数カウント）】

種 別	身体	重症心身	知的	精神	発達障害	高次脳機能	不明・無手帳
相談者数	87	7	111	20	31	5	2

【相談内容（複数カウント）】

	サービス利用	障害・症状の理解	健康・医療	不安解消・情緒安定	保育・教育	家族関係・人間関係
相談件数	127	31	43	40	16	53

家計・経済	生活技術	就労	社会参加・余暇活動	権利擁護	その他
30	34	25	16	13	56

(3) 月別実績

基幹相談支援センターとなり、実績数のカウントの仕方が変わったためもあるが、前年度に比べ、訪問件数が 3 倍、外来件数が 1.5 倍となっている。全ての障害を対象とした相談支援を通じて、アウトリーチの重要性を痛感しているところであるが、それに沿った実績数と言える。

名古屋市では、計画相談は指定特定事業所が主となるため、基幹センターはその支えとなることと、困難ケースを担当することが役割となる。自立支援協議会の事務局会議を通じて、区内の相談支援体制の充実に関わっている。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談	訪問	35	33	46	30	29	29	24	33	29	29	28	34	379
	外来	38	50	53	53	52	47	39	36	30	47	55	61	561
認定調査		18	27	15	20	16	17	21	25	16	17	24	28	244
配食アセス		1	0	4	2	2	3	4	1	0	3	3	1	24
計画相談	案	5	1	2	1	1	1	1	1	0	2	0	3	18
	計画	0	3	1	0	0	2	2	1	1	1	0	2	13
	モニタ	1	1	5	3	2	3	4	2	4	2	4	4	35

2. 名東区障害者自立支援協議会

障害者自立支援協議会は、地域で暮らす障害をもった方々やそのご家族の抱える生活課題を、地域の様々な立場の方々が協働することによって解決していこうという仕組みである。名古屋市では各区ごとに協議会が設置されており、障害者基幹相談支援センターがその運営を担っている。

8年目を迎えた名東区自立支援協議会では、各部会の取り組みが活発となり、研修会や体験企画なども実施できた。また、区内の学区民生・児童委員協議会での学習会についても3年目を迎え、今年度は5学区から依頼をいただき、講師派遣を行った。

今後は部会単位の動きをより活性化させるとともに、見えてきた課題の集約や検討を行う協議会本体の仕組みを工夫し、課題解決に向けての具体的な動きを生み出すことができるよう、心がけていきたい。

市単位の協議会設立に向けた準備会も発足しており、新たな仕組みを踏まえた展開も必要となっている。

	実施年月日	会場	参加	内 容	
協議会	H26/4/25(金)	区役所	24名	区内の状況・年度報告と計画・まもる報告	
	H26/10/24(金)	〃	21名	前期報告・後期予定・虐待相談・地域移行	
運営会議	H26/5/30(金)	区役所	9名	部会報告 区政運営方針 情報提供 事例共有	障害支援区分・差別解消法
	H26/6/27(金)	〃	6名		重症心身施設・虐待緊急対応
	H26/7/25(金)	〃	10名		総合見守支援事業
	H26/8/22(金)	〃	9名		移動支援
	H26/9/26(金)	〃	10名		本会のあり方
	H26/11/28(金)	〃	9名		市協議会試行に向けて

	H26/12/26(金)	〃	10名		市協議会試行報告
	H27/1/23(金)	〃	10名		来年度に向けて
	H27/2/27(金)	〃	9名		来年度に向けて
	H27/3/30(月)	区社協	10名		来年度に向けて
事務局 会議	H26/4/18(金)	区役所	10～ 15名	計面相談 区政運営方 針 事例共有	そだつ部会研修・制度改正
	H26/5/15(木)	〃			そだつ部会との合同研修
	H26/6/19(木)	〃			各部会の動き
	H26/7/18(金)	〃			協議会企画
	H26/8/29(金)	〃			〃
	H26/9/19(金)	〃			本会のあり方
	H26/10/31(金)	〃			市協議会について
	H26/11/21(金)	〃			〃
	H26/12/19(金)	〃			事業者連絡会の創設
	H27/1/16(金)	〃			来年度に向けて
	H27/2/20(金)	〃			報酬改定
	H27/3/30(月)	〃			ヘルパー研修
まもる 部会	H26/4/21(月)	区役所	8名	事例検討・今年度の取り組み	
	H26/5/29(木)	〃	10名	〃	・情報提供
	H26/6/26(木)	〃	7名	〃	
	H26/7/17(木)	〃	8名	〃	・子ども応援委員会
	H26/8/4(月)	かみやしろ	11名	子ども応援委員会	
	H26/8/25(月)	区役所	10名	事例検討	
	H26/9/25(木)	〃	9名	〃	
	H26/10/23(木)	〃	9名	〃	
	H26/11/25(火)	〃	10名	〃	
	H26/12/25(木)	〃	9名	〃	
	H27/1/19(月)	〃	10名	〃	
	H27/2/26(木)	区役所	6名	来年度に向けて	
	H27/3/24(火)	〃	9名	事例検討・子ども応援委員会について	
しる 部会	H26/4/17(木)	きふね	6名	区内事業所ガイドブック作成	
	H26/6/19(木)	〃	5名	〃	
	H26/8/21(木)	〃	6名	今後の取り組み	
	H26/9/18(木)	〃	6名	研修会の企画	
	H26/10/30(木)	〃	5名	〃	
	H27/1/29(木)	〃	3名	〃	
	H27/3/19(木)	〃	5名	〃	
うごく 部会	H26/5/22(木)	きふね	4名	バリアフリーマップ体験企画	
	H26/6/19(木)	〃	6名	〃	

	H26/7/17(木)	〃	4名	〃
	H26/8/21(木)	〃	5名	〃
	H26/9/10(水)	〃	6名	〃
	H26/9/26(水)	〃	5名	〃
	H26/10/15(水)	〃	5名	〃
	H26/11/12(水)	上社駅集合	6名	バリアフリーマップ体験実施 ～名古屋港)
	H27/1/19(月)	きふね	6名	バリアフリーマップ体験振り返り
	H27/2/17(火)	〃	8名	余暇支援について
	H27/3/19(木)	〃	6名	来年度に向けて
そだつ 部 会	H26/4/17(木)	区役所	13名	研修会確認・事業所近況
	H26/5/15(木)	区社協	28名	研修会「障害児支援に求められるもの」
	H26/6/26(木)	ぼけっと	19名	東部療育C見学・事業所近況
	H26/9/25(木)	区役所	16名	事業所近況・今後の取り組み
	H26/10/23(木)	〃	12名	事例検討・事業所近況
	H26/11/20(木)	〃	14名	〃 〃
	H26/12/18(木)	〃	14名	〃
	H27/1/20(火)	ぼけっと	12名	〃
	H27/2/19(木)	まーぶる	15名	事業所見学・ 〃 ・報酬改定
研修	H27/3/25(水)	サンプラザ	37名	ヘルパーさんを対象とした障害特性講座

3. 関係機関・団体との連絡調整会議／職員の講師派遣

行政や地域の関係機関との連携、相談支援体制整備への協力のため、外部会議への参加や研修講師派遣依頼を積極的に引き受けている。26年度は、名古屋市各区に基幹相談支援センターが設置され、市全体の相談支援体制も再考するような1年となった。

会議名	実施日	参加機関等	内 容
連絡調整会議			
名古屋市障害者 基幹相談支援C 運営・調整会議	5/16,7/25,10/30, 12/24,3/27	名古屋市担当 課・関係機関・ 各区基幹C	制度動向や市施策の説明、 テーマ別の話し合いなど
名古屋市基幹C 東ブロック会	5/7,6/10,8/5,11/5, 2/4	中・昭和・千種・ 名東各区基幹C	情報共有、指定事業所連携、 課題検討
愛知県障害者自 立支援協議会	6/3,9/25,2/3 10/9,2/5	関連分野や当 事者団体の代 表・学識経験者	部会：県主催・委託研修のあ り方、次年度への提言 本会：各部会報告、障害福祉 計画のチェック
相談支援従事者 指導者養成研修 検討会	4/25	厚生労働省・各 都道府県から の検討委員	国研修の内容の検討

講師派遣			
法人・事業所研修	6/21	(福) TUTTI	制度説明
	8/21	名東区南部いきいきC	制度説明
愛知県相談支援従事者現任研修	6/18,20,23,7/14,15	愛知県主催	県内相談支援専門員の資格更新研修
愛知県相談支援従事者初任者研修	7/20,8/11,14,15,9/9,10,10/16,17,11/6,7	愛知県主催	県内障害福祉関係者の相談支援専門員資格取得研修
相談支援従事者指導者養成研修	5/21~23	厚生労働省主催	各都道府県を対象とした指導者養成研修

4. 職員研修

基幹相談支援センターとして、地域拠点としての機能を果たすことができるよう、研修成果の共有を丁寧に行った。

名称	実施日	内容
障害支援区分認定調査員研修	4/22	総合支援法の概要と支援区分の位置付け・認定調査の実施方法
障害者虐待相談職員研修会	5/20	虐待防止法の概要・名古屋市の虐待相談支援事業と対応のあり方
精神保健・福祉・医療の連携	1/21 1/22	精神保健福祉法改正の概要と地域移行の現状・地域移行計画作成演習
事例検討のふりかえりから学ぶスーパーバイズのちから	1/28	スーパービジョンとは・事例検討
発達障害について	2/19	発達障害理解と支援のあり方・相談面接のあり方
大都市における障害者相談支援のネットワークづくりを考える	2/27	神戸市、札幌市、名古屋市の取り組みの共有と検討
全国聴覚・ろう重複児施設協議会設立記念集会	3/15	聴覚障害児の理解・行政説明

指定相談事業所 はまなす

今年度4月に事業を開始し、7月頃からコンスタントに計画相談の依頼が来るようになった。法人内利用者については、はまなすでの相談支援事業の認知度が低いことや、すでに他の事業所と契約されている方が多数を占めていたため、今年度は全契約者数の約4割強に留まっている。

法人内のケースについては、各事業所の情報や、広い範囲での話が聞けたり、困っている事等についてフォローができたりするので、報酬以上の物を得ることができている。また、障害別では、知的障害に次いで精神障害が多数となっている。今後も精神障害の方々からの相談件数が増加していくことが予想される。

1. 契約者の内訳

【居 所】

	名古屋	日進	尾張旭	瀬戸	北名古屋	江南	愛西	計
人	51	9	2	2	1	1	1	67

【性 別】

	男	女	計
人	38	29	67

【障害種別】

	身体	知的	精神	計
人	8	49(6)	10	67

* () 内は児童の内訳

2. 職員研修

実施日	名称等
7/2	「障害者虐待防止研修会」 名古屋市障害者虐待相談センター主催
11/24	「本人主体のプランニングを目指して～希望に近づくストーリーを描こう～」 愛知県相談支援従事者研修専門コース別研修事業
12/20	「障害児の利用計画作成の視点と実際」 同上事業
2/19	「専門研修 発達障害について」 名古屋市発達障害者支援センター主催
3/12	成年後見制度利用推進研修「権利擁護・成年後見制度」 愛知県主催
3/13	「権利擁護・虐待防止」 愛知県相談支援従事者研修専門コース別研修事業
3/25	ヘルパーさんのための障害特性講座「精神障害者の理解について」 名東区自立支援協議会主催

サービス品質の向上を目指した取り組み

名東福祉会は、提供するサービスの品質管理を法人全体で行いたいと考えています。法人・事業所の特色を生かしながら、利用者に満足していただけるサービスの提供を目指していきます。

そのためにも、人材育成やサービス改善の仕組みは必須です。

1. 委員会

【安全委員会】

(1) 目的

日常の支援において起こりうる事故・怪我・医療・看護・衛生をヒヤリ・ハット報告書から拾い出し、安全を確保するための考え方や具体的な方法を検討することで、実践場面での判断・対応に結び付けていく。

(2) 構成

参加希望職員 4 名、本部長

(3) 活動報告

- 5/23 ヒヤリ・ハット事例検討
- 6/27 ヒヤリ・ハット事例検討
- 7/25 ヒヤリ・ハット事例検討
- 8/22 ヒヤリ・ハット事例検討
- 9/26 ヒヤリ・ハット事例検討
- 10/24 ヒヤリ・ハット事例検討 安全委員会レポートと作成
- 11/28 ヒヤリ・ハット事例検討
- 12/26 ヒヤリ・ハット事例検討
- 1/23 ヒヤリ・ハット事例検討
- 2/27 ヒヤリ・ハット事例検討 安全委員会レポートと作成
- 3/27 ヒヤリ・ハット事例検討

(4) 成果等

法人職員から挙げられるヒヤリ・ハット事例が平成 18 年度をピークに減少傾向にあるため、法人職員向けに安全委員会レポート No1 を発行し、ヒヤリ・ハットの提出依頼をした結果、月 15 件前後のヒヤリ・ハット報告が挙げられるようになった。

また、安全委員会レポート No2 では、ヒヤリ・ハット事例検討の集計結果を掲載し、職員に情報提供をすることができた。

【安心委員会】

(1) 目的

利用者が安心して利用できるプログラムを提供するために、利用者の行動を利用者の視点から理解することを目指し、アセスメント技術の向上に取り組む。

また、支援者自身の支援行動が利用者に与える影響についても、客観的に把握できるようになることを目指す。

(2) 構成

各事業所希望職員 (5 名)

(3) 活動報告

- 4/19 「職員の注目を得ようとして、問題行動を起こす利用者への対応」
- 5/17 「カード利用によるコミュニケーションについて」
- 7/19 「職員の支援行動とその影響について」
- 9/19 「日中施設と夜間施設の連携について」
- 10/18 「支援者の問題行動について」
- 12/20 「行動分析の復習」

(4) 成果等

行動分析学を参考に、利用者の行動を支援者の視点ではなく、利用者の立場から捉えることを中心に話し合いを行ってきた。

そこから、利用者の行動にもそれぞれの理由があり、その行動を導いているのが支援者の支援行動であることを理解し、支援者が自分の支援行動を見直す機会となる場となった。

【接遇委員会】

(1) 目的

事業所においてサービスを提供する上での「接遇」のあり方について検討し、改善提案を行うことを目標として開催。実際には、狭義の「接遇」に留まらず、必要な専門知識の習得や個別支援計画のあり方などにも取り組んだ。

12月からは、各事業所における虐待防止の取り組みに重点を移し、継続的な取り組みを促している。

(2) 構成

- 第1回～3回 各事業所希望職員（8名）・名東区障害者地域生活支援センター
- 第4回 本部長・各事業所管理者

(3) 活動報告（検討テーマ）

	年月	検討テーマ
1	H26.5	障害福祉の基礎知識
2	6	事例検討
3	10	事例検討
4	12	虐待防止チェックリストによる各事業所の状況把握

(4) 成果等

平成25年度に続き、具体的なケース検討を通して、どのような視点が必要なのかを話し合ったり、基礎的な制度理解や、障害についての知識を再確認した。

現在は、チェックリストを用いて各事業所の課題を把握し、その改善の取り組みを継続することに重点を置いている。

【給食委員会】

(1) 目的

提供される給食の安全管理と品質向上のための検討をおこなうとともに、楽しく食事ができるよう環境整備をおこなう。

また、委託業者と法人が『よりよい食事サービスの提供』という共通の目標を常に確認する。

(2) 構成

法人：事業所支援員各1名、栄養士、レジデンス日進所長、栄養士、本部長

委託給食業者：エリアマネージャー1名、管理栄養士2名

(3) 活動報告

毎月第2木曜日に開催

- ・ 前月の給食提供内容の確認
- ・ 利用者個別対応の確認（健康・食品アレルギー等の考慮）
- ・ 献立の検討
- ・ 衛生面、感染症対応の検討

(4) 成果等

各事業所から前月提供された食事内容について、全体のバランス、量、味付け等報告が挙げられ、次月以降の献立作成に反映されるよう話し合いが進められている。

また、法人側からリクエストという形で、新規のメニューが提案され、委託業者側が献立に取り入れる形になってきている。

2. 機関誌「WORKS」編集部

法人機関誌「WORKS」を発行。事業の紹介や制度動向、関連領域の話題を通じて、障害福祉サービスのあり方を提言していく。

法人利用者、職員、後援会員、関係団体等に配布・送付している。

No.134 (7月発行)

「意思決定支援の技術をみがこう」 理事長 加藤久和

「『基幹センター』としての2か月半」 センター長 小島一郎

No.135 (12月発行)

「障害者のクオリティオブライフを高める法人であるために」 理事長 加藤久和

「法人の家族会活動について」 統括本部長 山田達巳

施設・事業所 一覧

社会福祉法人 名東福祉会 (昭和 56 年 8 月 認可)

法人事務センター 〒470-0124 日進市浅田町上納 58-4
TEL(052)805-1003 FAX(052)805-1004

法人ホームページ <http://www.meito.or.jp/>

種 別	名 称	住 所	電話番号	FAX 番号	E-mail
生活介護 就労継続 B 型	メイトウ・ワークス	〒465-0055 名古屋市名東区勢子坊 2-1303	(052)702-2863	(052)701-2079	meitoworks@meito.or.jp
相談支援	名東区障害者基幹 相談支援センター	同 上	同 上	同 上	同 上
生活介護 就労継続 B 型	天白ワークス	〒468-0023 名古屋市天白区御前場町 327	(052)804-5487	(052)804-5416	tenpaku@meito.or.jp
生活介護 相談支援	はまなす	〒465-0054 名古屋市名東区高針台 1-911	(052)704-7551	(052)704-7552	hamanasu@meito.or.jp
施設入所支援 生活介護 就労継続 B 型	レジデンス日進	〒470-0124 日進市浅田町上納 58-4	(052)805-1003	(052)805-1004	nissin@meito.or.jp
グループ ホーム	上ノ山ホーム	〒470-0124 日進市浅田町上ノ山 12-1	(052)808-4878	(052)808-4878	